

職業能力評価基準(型枠工事業)レベル区分の考え

レベル	レベル区分の目安
レベル 4	<ul style="list-style-type: none"> ・経営者を補佐し、または経営者の代理として業務を遂行するために必要な能力水準。 ・会社全体について方針や政策を立案する業務を遂行するために必要な能力水準。 ・経営的な判断および意思決定に参画するために必要な能力水準。 ・業績を上げるための営業統括管理的な業務を遂行するために必要な能力水準。 ・利益を向上させるための工事統括管理的な業務を遂行するために必要な能力水準。
レベル 3	<ul style="list-style-type: none"> ・部門や職場を統括し、計画的に職務を遂行させるために必要な能力水準。 ・顧客、他業種等と調整、問題解決をするために必要な能力水準。 ・与えられた持ち場で管理運営業務を遂行するために必要な能力水準。 ・部下や作業班をまとめ、業務を指示し指導するために必要な能力水準。
レベル 2(サブ)	<ul style="list-style-type: none"> ・上司を補佐し、部分的に作業班への指示・指導業務を遂行するために必要な能力。 ・技能・経験にもとづく、より高度な業務を遂行するために必要な能力水準。
レベル 2	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な判断、アクシデントへの対処、改善・提案を行うために必要な能力水準。 ・創意工夫をこらして、指示が無くても自主的に行うために必要な能力水準。 ・職務に関する専門分野の向上や拡大を行うために必要な能力水準。 ・作業班の一員として責任を持って任せられた仕事を遂行するために必要な能力水準。
レベル 1	<ul style="list-style-type: none"> ・定型的または基本的な仕事を遂行するために必要な能力水準。 ・部分的に指導を受けることもあるが、定められた手順に従って行う仕事を遂行するために必要な能力水準。 ・作業班の一員として指示を受け、ある程度任された仕事を遂行するために必要な能力水準。 ・作業指示または指導管理下で行う仕事を遂行するために必要な能力水準。
レベル 1(エントリー)	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事を覚えていくための基礎的な仕事を遂行するために必要な能力水準。 ・入社後の見習いの期間でマスターすることが期待される仕事を遂行するために必要な能力水準。 ・上司や先輩から逐一指導を受けながら行う仕事を遂行するために必要な能力水準。

型枠工事業におけるキャリア形成の例

